

ツリーガーデンは「山の上の画像」の出発点です

フロントページから続く「Beelden op de Berg」には2人の日本人アーティストが参加。土屋公雄は、人工林として芝生にさびたディンビームを設置しました。梁は真っ直ぐではありませんが、南北方向にあります。太陽が輝くとき、日陰は変わり続けます。

人工林を作る廃棄物は、私たちの消費社会の象徴です。：日本人の2番目の参加者は、製材所の家系である角永和夫です。日常生活では、角永は木、紙、絹を使って仕事をしています。彼はオランダの木材種を研究し、そこからポプラを選びました。「彼は、特に大きくて長いオランダの新鮮な木材を使いたいと思っていました」と、別のプロジェクトのためにすでにロサンゼルスに飛んでいる日本人の記念碑的な作品の美術史家は説明します。「彼はチェーンソーで水平にカットしました。彼は人間の介入の世話をしました。自然は今、残りをしなければなりません。

よく見ると、すでに垂直方向にひびが入っていることがわかります。多くの方がこの仕事に一生懸命取り組んできました。角永は新鮮な木が欲しかったので、ここの公園で丸太をはがしました。約6~7人のボランティアが忙しくしています。トランクを美しく白くするために、パンスポンジで研磨されています。

彼の要求で、ポプラはライン川の方向の斜面に置かれました。

枯れ木

ミデルブルグの Marinus Boezem は、Tectona Grandis で枯れ木の記念碑を作りました。インパラ花崗岩のオブジェクトは、カットディスクで木の伐採を示しています。：'ドイツの Erwin Wortelkamp による Der Schritt und Markierungen auf Wegen は、木の彫刻と、ドイツの詩人による哲学的なテキストが描かれた3枚の鉄板で構成されています。鉄板は三角形の中にあり、画像は板の間の接続を確立します。「アーティストが自然をどのように扱っているかを見るのは素晴らしいことです」と Nettyvan de Kamp は言いました。

「自然に触発されたものもあれば、天然素材を使ったものもあります。

1年前、私たちはすでにアーティストを招待し、「Beelden op de Berg」に参加するためのドローイングを作成するように依頼しました。彼らの作品の資料を送ってもらい、スタジオを訪問しました。WVC 省からの助成金を逃すことがわかったとき、彫刻展に参加するアーティストを減らすことができました。振り返ってみると、まだ十分な芸術作品があります。結局のところ、私たちは公園全体を構築するつもりはありません。

アーティストがイベントに参加するのは楽しいです。

彼らは費用手当と少額の参加費を受け取ります。彼らにとってより重要なのは、彼らが自分の作品を幅広い聴衆に見せることができるということです。結局のところ、「山の上の画像」は田舎の外観をしています。

LU 記念日

'Beelden op de Berg は、農業大学の75周年の一部です。LU は、州および市町村とともに主要な子会社です。1953年、大学は失われた別荘ベルモンテの公園に樹木園を設立しました。ツリーガーデンには、さまざまな大陸や気候の美しく特別な木、低木、植物があります。シャクナゲは、5月と6月の間、常に大衆にとって大きな魅力です。歩行者への開放を考慮した設計になっています。ベルクから1つがあります。



日本の角永和夫は、チェーンソーでポプラの大きな幹を水平に切ります。彼のオブジェクトは、多数の刻まれたポプラの幹で構成されています。自然が残りをを行います。山の尾根から見ると、印象的な光景です。

(写真：ニコール・テル・マテン)。

ライン、氾濫原、ベトウエの広い視野。'9月26日までの期間、エキスパートガイドによるガイド付きツアー、写真コンテスト、音楽、ダンス、演劇など、さまざまな公的活動が行われます。フォークダンスオーケストラのマセドワンは、6月20日日曜日に公園で無料の公演を行います。展示会には少額の入場料がかかります。訪問者はこのための情報フォルダを受け取ります。コーチハウスでコーヒーと紅茶をご用意しています！